

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員には管理者が、オリエンテーションで理念の思いや意味を職員に伝えていきます。職員室に絶えず掲示しており、理念を共有し実践しています。毎年部署目標を立てて達成に向けて努力をしています。	理念を踏まえた年度の部署目標を作成し、日々実践に取り組んでいる。今年度は「5S運動(整理・整頓・清潔・清掃・躰)」を目標に掲げ、全職員が気持ちを一つにして達成に向けて努力している。利用者の落ち着きや笑顔、自主的な行動(掃除・片づけ等)が増え、職員の仕事がしやすくなるなど、効果が見えてきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元商店街にお客様と共に買い物へ出かけます。また、当施設の納涼祭や地域の秋祭りへ参加者と地域の方からお声掛け頂き、お誘いを受けて頂けております。	近くの商店には日常的に買い物に行き、利用者とお店の方が馴染みの関係を築いている。また、施設の納涼祭への招待、地域の秋祭りへの参加等、交流を積極的に積み重ねている。地域の方々の事業所への関心は高く、施設周辺の整備や行事の際の利用者への配慮などが自然に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生・専門学校生の体験実習・ボランティアの受け入れを積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画を立て奇数月に実施しております。ホームでの状況・事故報告・苦情などを報告し、意見交換を行っています。また、火災防火訓練にも参加して頂き助言を頂いております。	会議は家族代表、仁田・野口集落区長及び住民代表、包括支援センター職員、事業所職員で構成され、定期的開催されている。事業所から運営状況や利用者の様子を報告し、区長から地区内の工事や行事について報告があり、参加者全員による意見交換が行われている。会議の結果に基づき、今年度はさくら棟避難口にスロープが設置された。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて参加頂き、情報交換を行っております。制度上の疑問など伺いながら取り組んでおります。	運営推進会議に包括支援センター職員が出席しており、いつでも相談してアドバイスや協力が得られる関係が構築されている。市介護保険課、消防署とも協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待・身体拘束廃止委員会があり、事業所や法人全体で、勉強会が行なわれております。また、日々ミーティングで等でも身体拘束に値しないか振り返りながら個別の支援に取り組んでおります。	法人内に「高齢者虐待・身体拘束廃止委員会」が組織され、定期的に研修会を行っている。研修に参加した職員が事業所の勉強会で内容を発表し、職員全員に周知共有を図っている。今年度第1回目はマニュアルについて学び、介護保険法に則った基本的・具体的な内容について理解を深めた。また、ミーティングでは、その日のケアを振り返り、抑圧感のない自由な暮らしの支援に努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待・身体拘束廃止委員会があり、事業所や法人全体で、勉強会が行なわれております。また、日々ミーティングで等でも虐待に値しないか振り返りながら個別の支援に取り組んでおります。	上記項目の「委員会」が中心となり、法人全体での研修会を実施し、事業所で勉強会を行って職員全員が虐待防止への理解を深めている。利用者への日常の対応や言葉がけについては、不適切なケアにあたらないかどうか意識して取り組んでいる。管理者は職員のストレスにも気を配り、コミュニケーションを密に行い就業環境の整備に努めている。法人内の保健師が職員の相談に応じる体制が整備されており、電話による相談も可能となっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度活用しているお客様はいらっしゃいませんが、今年度勉強会をする予定でございます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や今年度は介護報酬の改定があり、ご説明し納得の上、同意をいただきました。書面にてご署名を頂いております。また、ご不明な点はないか、また、ご理解頂いているか再度お尋ねしております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その日の受持ち職員が、お客様の声を聞いて実現につなげるよう努力しています。また、年1回お客様と家族に顧客満足度の調査を行ない、言いにくいことでも書いていただくことで課題として改善していく機会を作っています。	利用者の意見や要望は日常の関わりの中で汲み取って実現するように努めている。家族からは面会時に聴き取ったり、顧客満足度調査の際に言いにくいことでも意見や要望として書いていただき、運営に反映させている。	今回の外部評価のための家族アンケートに「重度化した場合の対応について」の心配が寄せられていた。意見や要望は事業所にとって大切な宝である。職員全員で検討し、改善に繋げていくことが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや月1回の部署会議、職員会議等で、職員の意見・議論を大切に運営しています。また、業務改善を上げ職員の意見を業務に反映しています。	職員と管理者は日常的に意見交換を行っている。各種会議では発言しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、職員個々の伝える力も育てている。職員の提案でユニット間の業務が偏らないよう調整が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、目標管理を軸に、自分の立てたやりがいのある目標に向かってチャレンジし、努力を続けることを大切にするように職員個別に指導しています。また、定時退社日を設ける等努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の教育委員会があり、モチベーションが上がるように、学ぶことを常に推進しています。新入職員のフォローアップ制度や、グループ内、法人内の研修制度もあり、職員育成に力を入れています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人のGH連絡会があり、定期的に交流の機会を持っています。法人内の連絡会(2ヶ月に1回、10ホーム参加)では、サービスの向上を目指して現状報告や意見交換を行っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様やご家族の思いを受け止め、安心して頂けるように、利用前にご本人にお会いして直接話をお聞きしております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立ってお話を聴き状況を把握し、対応に努めております。遠方の家族でも電話にて連絡を取り家族の想いをお聴きしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に、家族、担当ケアマネから本人の状態をお聞きし、本人にお会いして、想いや状態を確認しながらサービス導入に努めています。入居に至らなかったケースもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の残存能力・体力を考慮した上で、出来ること、役割を探しながら支援しております。また、その方の希望が叶うよう、対話を大切にしたり関わりや、お客様の気持ちを理解した関わりを心掛けております。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時やお手紙などで、日々の様子をお伝えし、情報の共有に努めています。面会時は、お部屋とフロアでゆっくりお過ごし頂けるように配慮しております。	家族には面会の際やお便り、電話などで日々の様子を細かく伝え、情報の共有を図っている。直通の携帯電話の設置により家族からの連絡がしやすくなった。外出・外泊・行事への参加・通院付き添い等に家族の協力を得ながら、共に支える関係づくりに取り組んでいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、御面会や誕生日の外出、外泊、お客様が行きたいと思っている場所に行き、ご家族やご友人等、大切な方と合う機会を作り、関係が途切れないように努めております。	普段の何気ない会話から馴染みの人や場所を把握し、本人の意向に沿った支援をしている。お盆や正月、誕生日の過ごし方は本人・家族と相談しながら希望に沿うよう努めている。地域行事への参加や公園への散歩、買い物や外食など地域社会とのつながりも大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の友好関係の確立されている所を大切に、居場所の配慮、食事作り、お掃除、買い物をされるなど共に出来るように支援しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後についてご家族が不安を感じた時や入院された時など、病院などの話し合いに同席し、医療連携室などを通じて支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを持ちながら本人の想いの把握に努めています。困難な場合は、チームで支援できる様、カンファレンスシートでご家族の意向も踏まえ検討しております。	法人のグループホーム連絡会で作成したアセスメントシートを使用し、本人の言葉をそのまま記入したり似顔絵を描いたりなどの工夫をして、「その人を良く知ろう」と把握に努めている。面談は、利用者がリラックスできる雰囲気を作り、居室などで行なわれている。また、日常生活の会話の中からも思いや意向を把握し、具現化できるよう積極的に取り組んでいる。本人からの意向を確認できない場合は、家族などから、これまでの暮らしぶりの情報を伺い、本人の意向を汲み取るよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前訪問で情報情報を得たり、ご本人やご家族の意向もセンター方式シートを活用して情報を得ています。その情報を基に、本人の思いや、ご家族の想いを大切にし関わりた関わりを目指しています。	事前面接だけでなく、それ以降も継続して本人、家族から生活歴、生活環境など、これまでの利用者が過してきた歴史などの把握に努めている。本人の兄弟や姉妹など、親戚だけでなく、入居前に担当していた居宅ケアマネジャーや施設ケアマネジャーからも情報収集し、「これまでの暮らし」の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況を全職員が把握して、ご本人が出来る事を大切に、役割を持って頂けるようミーティングで検討し、本人が安心して過ごしていただけるように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングやアセスメントで、気づき、ご意向からカンファレンスを行い、活発な意見交換を行っています。ご本人やご家族のご意向も大切に介護計画を作成しております。	ケアプランマニュアルが策定され、それを基に計画作成担当者や居室担当を主に職員全員でサービス提供状況を確認し、介護計画の見直しを実施している。初回や介護保険の更新時期だけでなく、面会時や受診等家族が来所した際にも、利用者、家族の意向を確認し、利用者の状態変化などの把握と、日頃の気づきを昼ミーティングで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のちょっとした変化を個々の生活記録に残す様努力しています。少しでもいつもの状態と違いのある時は、ミーティングで話し合い、カンファレンスに繋げ介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせて、通院等支援をしています。本年度は完全なる看取りとは行かなかったですが、終末期を迎えたかたのケアを支援させていただきました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校や消防などへ働き掛けを行ったり、運営推進会議には地域の方に委員になっていただき連携を図っております。地域の方より畑をお借りし、野菜作りなど行ない季節感を味わって頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携を重視して、入居時に同意と納得を頂いてからかかりつけ医の変更を行っております。ホームでの様子を詳しくお伝えし、適切な医療を受けられるように支援しています。	かかりつけ医への受診は、基本的に職員が対応するが、利用者や家族の要望も相談しながら臨機応変に対応している。業務マニュアルにて受診時の対応もしっかり策定され、新たに「受診連絡票」を作成し今まで書式が別々だった物を統一し、かかりつけ医との連携が円滑に行われるよう工夫している。また、専門病院も含め、協力医療機関のとの関係はとても良好である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調チェック表にバイタル測定値や特記事項を記入し、看護職に定期的にチェックしてもらいながら日常的な連携に努めています。事故や異常時は速やかに相談し、早期に医療機関につなげられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は面会に行き、本人の状態を確認しています。退院時の食事指導等も直接受けています。また、家族や病棟の看護師と連携をとって退院への支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お客様の家族が不安に思われ問われてこられます。その為、ご本人の状態も考え十分に方向性を話し合った上で、事業所のできる精一杯の支援をさせて頂いております。	重度化や終末期のケースは、本人の立場になって、家族、主治医と話し合い、「たちばな」の看護師を交えチームで支援している。研修で学んだことを積極的に活かし、より良い支援体制の構築を目指している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習を受け基本を学んでおります。施設内や、ホーム内の勉強会で訓練を行ない、対応を身につけるようにしています。また、AEDの操作方法も学んでいます。	業務マニュアル「緊急時の連絡対応手順書」を設置したり、携帯電話9台を購入し急変や事故発生時には、早期対応ができるよう努めている。年に一回、救急法やAEDの研修会を開催し、職員が、繰り返し学んで技術を身につける仕組みとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各棟での避難訓練を定期的に行ない、各職員がスムーズに行動ができるようにしています。年に1回の総合防災金連では、地域の消防団の方、住民の方にも参加して頂いております。	日中・夜間などのあらゆる想定で毎月一回、避難訓練を開催し、年一回、地域住民や消防団の参加により総合防災訓練も行っている。また、地域主催の防災訓練にも積極的に参加している。今年は、十日町市主催の防災訓練の幹事施設で、10月に当施設の防災訓練を他法人の施設、病院関係者が見学に来ることが決まっている。火災、風、水、雪等の各種災害マニュアルが作成されており、中でも運営推進会議で時間をかけて土砂災害危険地域の為の独自のマニュアルが策定されている。また、昨年度も利用者重度化の対応によるスロープを設置する等、マニュアルや避難経路の見直しも図られている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを意識しています。不必要に大きな声での会話や、カーテンや扉の開閉に配慮する等、プライバシーにも配慮した対応を心がけています。	「個を大切にし、心を満たす医療・福祉の実現」などの法人の基本理念を掲げ、朝礼にて「禁句3ヶ条」が毎日唱和されている。また、併設施設内の「たちばな会議」で全職員が利用者の尊厳や権利を守るための支援について、周知、理解する時間を持ち、利用者本人の気持ちを尊重する言葉かけや対応ができるように日ごろから心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に心がけて、思いや希望を言いやすいように努力をしています。特に、食べ物のご希望はお客様から出やすく、好きな飲み物やお茶菓子の希望は沢山聞いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を聴き取り少しでも希望に沿えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服などの選択など、その人らしくいられるようにご本人にもお聞きしながら配慮しています。また、必要に応じて介助しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理のしたごしらえや、味見、食器洗い、食器拭きなど、声をかけながら行なっています。率先して行なって下さる方もいらっしゃいます。また、お食事もお客様、職員と共に食べています。	「あんみつが食べたい。」「ぼた餅は？」など、日常から利用者の嗜好を汲み取り、併設しているデイサービスの管理栄養士を交えて介護職員を含む全職員で献立を考えて食事を提供している。食材の買い出しや下準備、片付けなどは、利用者と職員が一緒に行なっており「食事は美味しい」と評判が良い。また、利用者と職員が食事を一緒に摂りながら、楽しい食事となるよう支援している。お茶碗や湯飲み等、利用者の馴染みの物を利用し、自宅で過ごしていた頃と同じ雰囲気での食事ができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事では、一人ひとりに合った量や携形態の検討をしながら提供しています。水分量の少ない方には、ご本人の好まれる物を提供しています。また、体調の変化もしっかりと記録し、医療につなげています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯みがきやうがいをお客様がご自身で出来る様に声を掛けたり、見守りながら行なっています。磨き残しの有る方には介助し、舌の汚れの有る方には舌ブラシを使用し毎食後清潔に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に定期的なトイレ誘導、排泄チェックを行なっています排泄パターンをとり、サインを見逃さず、失禁を減らすために、トイレでの排泄を促しています。オムツ外しを心掛け、失禁パンツにパットや布パンツの使用に努めています。	病院入院中に状態が悪化し、リハビリパンツの利用を余儀なくされた利用者が退院後、職員皆で取組んだことで布パンツへ移行したケースもあり、自立にむけた支援に努めている。定時のトイレ誘導だけでなく、利用者の表情や様子から察知し、さりげなく誘導を行っている。「排泄チェック表」を使用し、また夏は通気性の良いパンツを用いるなどの工夫もなされている。利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけなどのプライバシーにも配慮し、その人に合った排泄介助の支援がなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便となるように、水分補給を多めにしたり、毎日の体操、散歩等で体を動かしたり、便秘予防となるような食事にも配慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に添える努力と体温や血圧が安定されている時間帯に入浴していただけるようにしています。	午前・午後だけでなく、夜間入浴等、一人ひとりの意向を尊重した時間帯や回数を検討するなど、最低でも週2回以上入浴できるよう、利用者のニーズに合わせた入浴支援が行われている。入浴を拒む人に対しては、言葉かけや介助者を変える等、対応方法を工夫し、決して無理強いしないよう心がけている。入浴時に夏はラベンダー、冬は暖色系の緑や黄色の入浴剤なども活用して入浴が楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くし、夜間眠れる様に関わっています。本人の就寝時間に合わせ休んで頂いています。居間に冬はコタツを設置したり、長座布団を置き休息しやすい環境を作り、安心感、居心地の支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の一覧表を作成し、担当者を決め、他の職員と確認しながら服薬をおこなっております。薬の開始、中止など変更がある場合は、理由を明確に記録して周知。医師や看護との連携を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、踊り、掃除、編み物、買い物など一人ひとりの得意なこと、出来ることを活かして役割を持っていただき、職員も共に楽しみながら支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物など、外に出かけることを大切にしています。地域のイベントにお誘いで協力し外出支援をしています。	普段の会話の中から本人や家族から情報を収集し外出計画に反映させている。外出先も事前に職員が視察に行く等、安全にも配慮している。毎日の買い物だけでなく職員もアイデアを出し、「千年の湯」等に外出している。特に「かっぱ寿司」は、大人気の外出先の一つである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、本人とご家族の意向を確認しています。事業所としては基本的にお金はお預かりしていません。ご本人が所持されている方は、使用時にに関わり、支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様自ら電話を掛けたいと仰る方はご本人のご体調に配慮し支援しています。電話がかかってこられた時には、やり取りが出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけはお客様と一緒に作った作品を毎月飾って季節感を感じられるような装飾を行っています。生活感を感じられるように季節の野菜を使い食事を作っています。また、テレビの配置も過ごしやすいうように、お客様と相談し共有空間で楽しめる工夫をしています。	共用のスペースは昨年、「家庭に近く居心地のよい環境とは？」という気持ちから始まり、職員全員で整理整頓が行われた。広々としたリビングは天井が高く、フローリングの他に小上がりに畳を配置し、自宅と同じように寛げる共用空間が提供されている。食堂や廊下の飾り付けは、利用者と職員が協同した手作りであり、安全かつ生活感や季節感のあるものとなっている。適度に観葉植物が置かれ心地よい空間作りに一役かっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席などで気の合ったお客様同士お話をされて過ごされていらっしゃると思います。天気の良い日には、日の当たる場所でお茶のみ日向ぼっこ、窓際に椅子を設置し外を見たり落ち着いて過ごせるように配慮しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には本人の使い慣れたタンスや、写真など持ち込んで頂いております。馴染みのあるものを持ち込んで頂けるよう声もかけさせて頂いています。自作の作品を飾ったりしています。	居室には利用者や家族が今まで使っていた衣裳ラックや寝具、写真等の思い出の品々が持ち込まれている。フローリングだけでなく畳も配置され、本人の気持ちや状態を勘案し選択できる。共用空間と同じく「居心地のよい家庭に近い環境とは？」という気持ちから整理整頓を行い、またプライバシーを大切に利用者一人ひとりに即した居心地が良く安心して過ごせる空間作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎年、危険箇所の点検を職員で行い改善してきました。		